シゲジロウ話・釜木伐り

シゲジロウ、山仕事をすることになった。親方に言われて山で釜木(薪)を百カマ伐ておげ、と頼まれた。出来たと言ってきたシゲジロウのあと見にいったわげだ。したらば、親方、いくら勘定してみても五十しか、ながったど。シゲジロウにただしたわげだ。

シゲジロウは、「上、下伐ったもの、五十の倍は百だべしぇ」と言たわげ。半分の仕事しかしないシゲジロウにやられでしまった、という話。　鎌田林治(上母体・大正6年生、83歳)

(解説)

上母体は国有林の麓村で、山仕事が収入源であった。山仕事の中で生まれた話である。シゲジロウ話は、山がちの村にも伝わった。そのときそのときの機転で話ができる。この場合は、上下二回のこぎりを入れたから、倍の計算になるというごまかしに、親方がだまされた話である。